

幼稚園の先生になる人をどう育てるか

北翔大学 教育文化学部 教育学科 教授 山崎 正明



1 幼児教育現場の課題

幼児教育の現場を造形・美術教育の視点から（右の「幼稚園教育要領」の「表現」に関する視点）を見てみると、学ぶべき素晴らしい実践がある一方で、大きな問題点があります。

その問題点とは、一言で言えば、「幼児は未熟だから大人が描き方や作り方を丁寧に教えて上手にできるようにさせてあげる」というものです。幼児教育現場の実態を把握するため、一例として web で画像検索をしました。

図①が「幼児 製作」という言葉で検索したものの。図②が「幼稚園 壁面装飾」で検索したものです。

これまでの内外の子供の絵の発達に関する研究などは、なかったかのようです。

「幼稚園教育要領」から「表現」関連部分を抜粋

領域「表現」の目標

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」

幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(10) 豊かな感性と表現 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

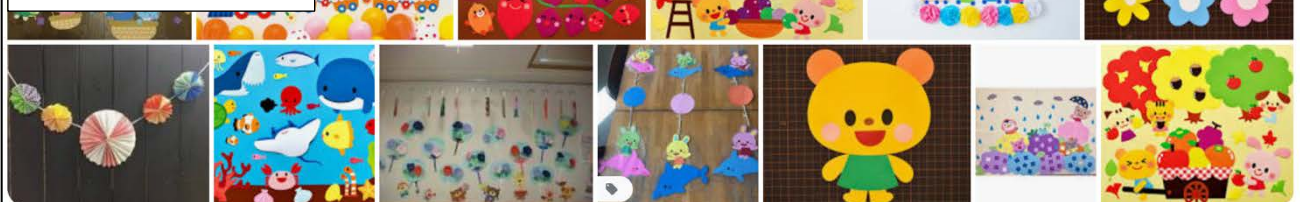
図①

「幼児 製作(制作)」



図②

「幼稚園 壁面装飾」



幼児の造形表現というより「幼児の製作」という言葉が流通していますが、これはまさに「製作」そのものが目的化していることの象徴であると考えられます。それは小学校における「酒井式描画指導法」や中学校における手順や方法を細かく示し、大人から見て高度な完成品を求めるような授業とも似ています。なお、幼児教育の場合は、先生向けに「製作の本」や「幼児教育雑誌」などで、誰でも「上手に」描かせられるための本が出ていますし、近年は YouTube も多数あります。保育者が「今度の製作、何しよう？」って思って検索したら、たくさんの例が出てきます。問題は山積みです。

2 教員養成課程の取り組み

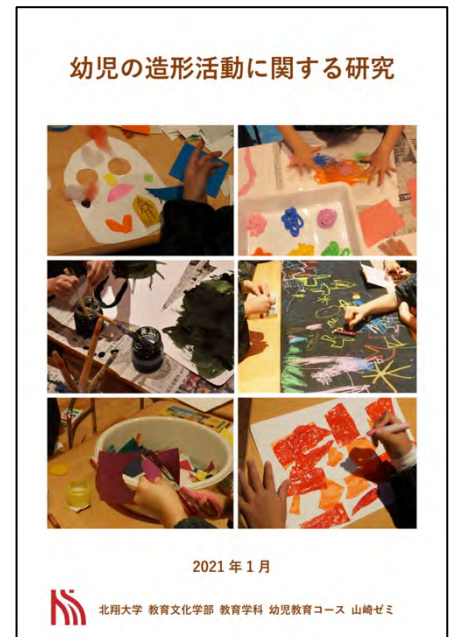
教員養成課程でしっかり学んでいっても、図①や図②にあるような「幼児は未熟だから教えて作らせる」というような園に就職してしまえば、大学で学んだことは生かせるどころか、否定されることさえできます。また、そのような園に就職しなければよいということも問題の本質的な解決にはつながりません。

学生が、就職してからも力を発揮するにはどうしたらよいか、そこで考えたのが学生自身が大学で、学んだことを1冊の「実践記録」にまとめるというものです。

この冊子は就職した園で同僚に見てもらったり、自分が実際に実践するときの資料にもなります。

具体的な方法ですが、「実際にゼミの活動として、学生が幼児教育の現場に出かけ、直接、保育する機会を作り、その成果を記録として残す」というものです。本来は、子供の遊びや環境を通して自由保育における造形表現が望ましいのですが、いわゆる「設定保育」としてやっています。

私としては、この取り組みに手ごたえを感じています。ただ、取り組みには条件があります。



- (1) 子供の姿や表現したものを印刷物や Web で公開することについて許諾いただける園と連携する。
- (2) 活動は、園における預かり保育の時間を活用させていただく。園に負担がからないように。
- (3) 幼稚園に行き、準備から後片付けまで含めて最大でも 90 分以内で終わるようにすること。
- (4) 写真のほか、動画を撮影し、幼児の表現の過程を後で振り返ることができるようにすること。
- (5) 実際の園で設定保育をすることを前提とする。大掛かりな内容にしない。日常的に無理なくできる内容であること。
- (6) 記録は他の人に読んでもらうことを考えて、写真を活用し、簡潔にまとめること。A4 見開き 2 ページ。指導案ではなく、あくまでも指導の記録・ドキュメンテーションとして考える。

今年度は学生が 6 回、園に出かけました。最終的な目標は一冊の実践記録としてまとめることでしたが、その目標に向かうことを通して学生たちの話したことが、とても印象に残っています。

「保育のやり方や考え方によって子供たちの発想も表現もものすごく変わってくるのがわかりました。やはり子供の可能性を考えないと。」「私たちの研究って、園に行きって幼児に何かを働きかけると言うこ

とより、準備が本当に大切だと思いました。準備 8 割みたいな感じです。」

学生が、このことを実感していたことに確かな手応えを感じました。専門性を携えて、幼児教育の現場に送り出す。実際に行ったら忙しい日々です。そんな時この冊子が役立ってくれるはずです。

なお併せて、卒業生にはお勧めの絵の具とお勧めの筆を持たせました。これは、実際に就職した学生が、現場に行ったときに大学で学んできたことの中に、材料・用具のことも含まれていたからです。筆や絵の具については無頓着なことがまだまだ多いのです。

3、現場での手応え

昨年、卒業生が、幼児教育の現場で力を発揮している場面に出会いました。いま、担任をしている 5 歳児の取り組みです。写真にある「ねんどずかん」というものです。園長先生は彼女がいかに子どもの一人一人の発想を大切にしているか、エピソードを交えながら、話してくれました。



園長先生は幼稚園で行われてきた「当たり前」を見直しながらより良い保育を目指そうとしているとのことで、新人の先生が大学で学んだできたことを、園でも取り入れていきたいと話してくれました。担任が学生時代に大切にしていたのは「絵を通して子ども一人一人の思いを知る」ということでした。それは、私のゼミでつくった「実践記録」にも残されています。(P4・5参照) <https://yumemasa.exblog.jp/30626272/>



4、これからすべきこと

最初に幼児教育の問題点を指摘しました。これは、私たち大学教員、造形美術教育関係者の責任でもあります。このメルマガで冒頭で問題点としてあげた教育方法は、そもそも、現場の保育者が子供のためにやっていることです。だから難しい面もあります、しかし、できることをしていかなければ、と思います。この全美協メルマガによって互いの教育実践を知ることもその一つでしょう。

なお、今後は YouTube での発信も必要だと思っています。現在、幼児の造形表現で検索して出てくるのは「ハウツー」が主ですから。昨年、私も YouTube で発信しました。問い合わせもあり、手応えも感じます、しかし、「大学の公開講座」でしたので 60 分。長すぎます。もっと現場の先生に気楽に見てもらえるものが必要です。今後は大学生の発信というのでもいいかなと考えています。 <https://www.youtube.com/watch?v=ITbxVNFUDUJ0>



* こうした発信をに興味のある方は山崎正明 yamazakmasaaki@mac.com までご連絡ください。

ケーキ屋さん



右に描いてあるものが、ケーキ屋さんになった自分で、おいしいケーキを作るケーキ屋さんになりたいと言っていました。

どうしてケーキ屋さんになりたいのかを聞くと、「みんなにケーキを作って喜ばせてあげたいから」と言っていました。

ブルドーザー



かっこいいブルドーザーに乗りたいと言っていました。

ブルドーザーに乗って何をするのかと聞くと、「砂を運ぶ」と言っていました。

話を聞いていると、ちょうどこども園の庭が改装工事中で、そこで砂を運んでいるブルドーザーを見てかっこいいと思い、この絵を描いたようです。

住みたい家



描き始めは何を描いたらいいのかわからず、なりたいものがないと言っていました。なので、お仕事じゃなくても、こんなお兄さんになりたいとか何でもいいよ。と声をかけました。

すると、思いついたように家を描き始めました。

この絵も、何も知らない人が見ればどうして将来の夢なのに家なのか疑問に思うと思います。

しかし、話を聞くと、今住んでいるおうちに大きくなって住んでいたいから家を描いたと言っていました。

成果と課題

一人ひとり将来の夢があり、思いついたものを絵に表すことができていました。どうしてなりたいのかを聞くと、興味を持った理由なども知ることができ、とてもおもしろいと感じました。

事前に、なりたいものがないという子どもがいることを想定し、そのときには職業にとらわれずに、どのようなお兄さんお姉さんになりたいのかなど何を描いてもいいと伝えるように決めていました。実際にそのような声かけをすると、描けるようになっており、良かったです。

今回の題材では、私の研究の目的にある、完成品を見るだけではわからないことを話を聞いて知ることができとても良い学びになりました。

5 歳児

紙コップであそぼう

- 大量の紙コップを使い、重ねたり、並べたり、積んだり子ども自身が遊びを見つけて楽しむ。

ねらい	材料・用具	環境の構成	配慮事項
1. たくさんの紙コップを使って自分のやりたいこと、作りたいものを表現する。 2. 友達と共有したりしながら一緒に遊びを楽しむ。	・紙コップ ・紙コップを入れるケース	子どもが密になったり、活動場所も固まったり、一人がたくさん持っていけないよう3か所に分けて紙コップを置く。	潰れたり、汚れているものがないか確認する。

導入

「今日はたくさんの紙コップを持ってきました。みんなだったらどうやって遊ぶ」と問いかけてみて、「先生はね、積んだり並べて遊ぶよ」と実際にやって見せて子どもたちを遊びに誘いながら造形遊びを始めました。

1 活動



「もっと高くしたい」という気持ちが強くなり椅子を使って高くする工夫をしていました。しっかり支えないと紙コップはクネクネし始めて、その不思議な動きをおもしろがる姿もありました。また「倒れるか、倒れないか」のスリルも子どもにとって一つの楽しみ方だと気づきました。この写真の子どもの表情を見ると楽しさが伝わってきます。

私は重ねたり、積んで何かの形が出来る遊びを想定していましたが紙コップを一本だけ高く積むといった想定外の遊びになりました。子どもたちは最初に高く積むことに興味を持ち、友達と協力して自分たちの力で自分の身長より高く積めたことに達成感を感じているように見えました。



右の写真→椅子に上る3人の姿を見た子どもは「椅子を使ったら高くできるんだ。私も・僕もやりたい」という気持ちが出てきて高く積む遊びが広がり、最終的に誰が高く積めるか子ども同士で競い合う姿が見られました。



高く積むには限界を感じて次は倒してつなげる遊びに変わっていききました。

「こうやってつなげよう、全部繋げたらどうなるんだろう、一緒に繋げよう」などの子ども同士の会話や積んで遊んでいた子どもも周りの遊びが気になり、「やりたい」子どもが増えて最終的には全員で一つのものを創り上げていました。写真の左から順に長くなって、遊ぶ人数が増えていることが分かります。全部繋ぎ終えた後「これなに」と問いかけると「大蛇、蛇」などと答えてくれました。枕にしてみたり、乗った気分を味わう子どももいました。全員が同じ遊びを楽しみ、一つのものが出来上がることは想像していなかったのが驚きました。見ている側も子どもの関わりなどが見えて興味深かったです。



この写真はお家作りをしている様子です。

「レンガどうぞ」と建築家になったかのように少しづつ家が大きくなっていくのを楽しんでいました。倒れないよう慎重に動く姿が印象的でした。



2 片付けの様子

片付けの時間になると、率先して動く年長の姿が見られました。楽しく片づけを擦る子どもや、片づける際に高さを同じにしたいと几帳面な子どもがいました。

上手くいけばぴったり入るケースだった為、隙間がなくなってきてどこに入れようか悩んでいる子どもに対して「ここに入るよ」と子ども同士で教え合いをしていました。

遊ぶ時間と片付けの時間の切り替えが早く驚きました。



成果と課題

子どもたちが遊んでいる中でできたものは分かるものもあれば、分からないものもありますが子どもが協力して遊ぶ姿や出来るまでの過程を見たり、子どもに聞くことで理解することができると改めて感じました。一人一人がやりたいことをして遊ぶ姿だけではなく、子どもたち全員が自然に同じ目的をもって「蛇」を作る姿には驚きました。短い時間の中で子ども同士の興味の引き合いからさらに遊びが広がっていったり、様々な遊びの展開を見ることが出来て良かったです。

椅子に上ることを想定していなかったのが、怪我をしなにか危険に目がいき子ども全員と関わるができなかったのが反省点と感じました。また、「もっと高くしたい」気持ちから椅子を2個重ねて上る子どもがいて「2個は怪我するから危ないよ」と伝えましたが伝わらなかったのが、始めに「椅子を使うなら一人一個まで」とルールを決めておけばよかったと感じました。いろいろなことを想定して準備をする大切さを学びました。